

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	助産師必修
担当教員			
◎常盤洋子、八巻ちひろ、上田恵、五十畠麻奈美、黒崎美月、篠崎博光、立木歌織、竹内崇、有光威志、安藤智子			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 前期	【授業時間】 30時間	
	【担当教員】 【氏名】 ◎常盤 洋子 八巻 ちひろ 上田 恵 五十畠 麻奈美 黒崎 美月 篠崎 博光 立木 歌織 竹内 崇 有光 威志 安藤 智子	【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上 同上 同上 群馬大学大学院保健学研究科 利根中央病院 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 慶應義塾大学 医学部 小児科学教室 筑波大学大学院人間総合科学学院	【研究室】 320 309 302 608 602 【メールアドレス】 yotokiwa@niigata-cn.ac.jp cyamaki@niigata-cn.ac.jp ueda@niigata-cn.ac.jp isohata@niigata-cn.ac.jp mitukuro@niigata-cn.ac.jp
【本学の科目区分】 専門科目			
【D P 1】 ○			
【D P 2】 ◎			
【D P 3】 ○			
【D P 4】 ○			
【D P 5】 ○			
【D P 6】 ◎			

到達目標	1. 助産診断の概念と基本原理、科学的根拠に基づく助産過程を説明できる。 2. 助産診断を行うための系統的な情報収集とフィジカルイグザミネーションを説明できる。 3. 「産科診療ガイドライン」、「産科危機的出血の対応ガイドライン」の助産ケアへの活用を説明できる。 4. 「新生児救急蘇生ガイドライン」のエビデンスと蘇生法を説明できる。 5. 「周産期メンタルヘルスコンセンサスガイド」のエビデンスと助産ケアへの活用を説明できる。 6. 養育者のアタッチメント理論を活用した子育て支援のあり方を説明できる。
授業概要	助産診断の概念と基本原理、科学的根拠に基づくアセスメントや助産診断能力を修得する。妊娠期から育児期における母子とその家族を対象にした系統的な情報収集と助産診断を行うための知識・技術、思考プロセスを修得する。周産期医療、産科救急、周産期メンタルヘルスケアの実践の基盤となる各種ガイドラインを活用した助産診断・技術を学ぶ。また、妊娠婦の主体性を尊重した切れ目のない支援を行うために必要な多職種連携・協働に必要なコミュニケーションに関する知識と技術を修得する。さらに、女性及び家族への生涯にわたる健康の継続的支援に必要な知識と技術を修得する。
授業計画	1 授業内容 授業形態：講義 学修課題：助産診断の概念と基本的理念、助産過程の展開 学修内容：助産診断の概念と基本的理念、助産過程の展開、フィジカルイグザミネーションの定義 備考：常盤 2 授業内容 授業形態：講義 学修課題：助産診断とフィジカルイグザミネーション(1) 学修内容：助産診断とフィジカルイグザミネーションの基本 備考：増澤 3 授業内容 授業形態：講義 学修課題：助産診断とフィジカルイグザミネーション(2) 学修内容：妊娠期の助産診断とフィジカルイグザミネーション 備考：五十畠 4 授業内容 授業形態：講義 学修課題：助産診断とフィジカルイグザミネーション(3) 学修内容：分娩期の助産診断とフィジカルイグザミネーション 備考：八巻 5 授業内容 授業形態：講義 学修課題：助産診断とフィジカルイグザミネーション(4) 学修内容：産褥・新生児期の助産診断とフィジカルイグザミネーション 備考：塙田

	6	授業内容 授業形態：対面授業 学修課題：産褥期(メンタルヘルス)の助産診断とフィジカルイグザミネーション 学修内容：産褥期(メンタルヘルス)の助産診断とフィジカルイグザミネーション 備 考：常盤
	7	授業内容 授業形態：遠隔授業 学修課題：「新生児救急蘇生ガイドライン」の臨床活用(1) 学修内容：「新生児救急蘇生ガイドライン」のエビデンスと蘇生法 備 考：立木
	8	授業内容 授業形態：遠隔授業 学修課題：「新生児救急蘇生ガイドライン」の臨床活用(2) 学修内容：「新生児救急蘇生ガイドライン」のエビデンスと蘇生法 備 考：立木
	9	授業内容 授業形態：遠隔授業 学修課題：「産科診療ガイドライン」、「産科危機的出血への対応ガイドライン」の臨床活用(1) 学修内容：「産科診療ガイドライン」、「産科危機的出血への対応ガイドライン」のエビデンスと産科診療への活用 備 考：篠崎
	10	授業内容 授業形態：遠隔授業 学修課題：「産科診療ガイドライン」、「産科危機的出血への対応ガイドライン」の臨床活用(2) 学修内容：「産科診療ガイドライン」、「産科危機的出血への対応ガイドライン」のエビデンスと産科診療への活用(妊娠期・分娩期における超音波診断法含む) 備 考：篠崎
	11	授業内容 授業形態：遠隔授業 学修課題：周産期メンタルヘルスコンセンサスガイドの臨床活用(1) 学修内容：周産期メンタルヘルスコンセンサスガイドのエビデンスと活用(1) 備 考：竹内
	12	授業内容 授業形態：遠隔授業 学修課題：周産期メンタルヘルスコンセンサスガイドの臨床活用(2) 学修内容：周産期メンタルヘルスコンセンサスガイドのエビデンスと活用(2) 備 考：竹内
	13	授業内容 授業形態：遠隔授業 学修課題：新生児の脳機能研究からとらえた出産前からの家族のアタッチメント支援 学修内容：新生児の脳機能研究からとらえた出産前からの家族のアタッチメント支援の実際 備 考：有光
	14	授業内容 授業形態：遠隔授業 学修課題：養育者のアタッチメント理論を活用した子育て支援(1) 学修内容：養育者のアタッチメント理論を活用した子育て支援の実際(1) 備 考：安藤
	15	授業内容 授業形態：遠隔授業 学修課題：養育者のアタッチメント理論を活用した子育て支援(2) 学修内容：養育者のアタッチメント理論を活用した子育て支援の実際(2) 備 考：安藤
事前・事後学習		事前学修：助産診断と助産診断技術について、授業で学ぶ各種ガイドラインについて予習しておくこと。 事後学修：本科目で学んだ知識と技術を助産診断・技術学演習ⅠⅡⅢⅣの学習に主体的に活用すること。
評価方法、評価基準		到達目標1～6に対して、筆記試験80%、課題20%
テキスト		日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会(2020)：産婦人科診療ガイドライン産科編。
参考図書・資料等		我部山キヨ子・大石時子. アセスメント力を磨く助産師のためのフィジカルイグザミネーション第2版, 2018, 医学書院。
受講、課題、資料配布等のルール		授業で使用するガイドラインは各学会のホームページ等で調べて事前に学修しておくこと。 授業では、指定したテキスト以外に各講師から提示された資料を使用する。
教員からのメッセージ		助産師国家試験の出題基準、助産師国家試験問題集を手元に置き、授業内容と照合しながら学習を進めてください。
オフィスアワー		在室時には随時対応します。